



R3. 5. 15撮影

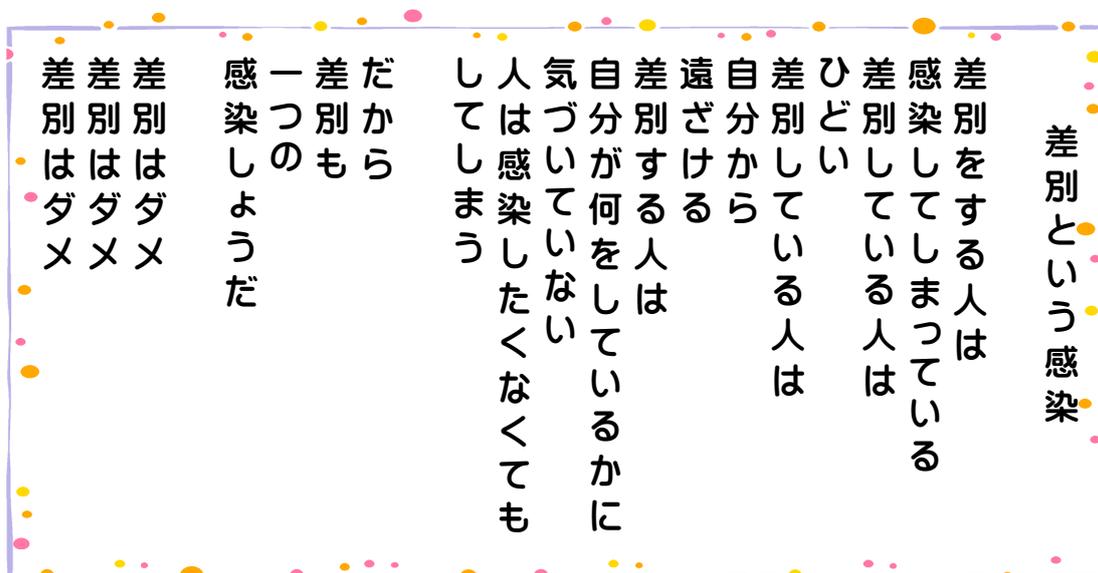
【巻頭言】

「子どもから大人も学ぶ」

福島県小学校長会安達支会長 佐藤 則之
 (二本松市立二本松南小学校長)

何が大切なのかを、敏感に感じ取る子どもたち。

メディア等による大量の情報が入らないからこそ、惑わされることなく、純粋な心の眼で、良いものと良くないものを判別しているのかも知れない。本校児童が家庭学習の中で自主学習として取り組み、ノートに綴った詩を紹介する。



「差別する人は 自分が何をしているかに 気づいていない」…この言葉から、知らず知らずのうちに人の弱さや醜さを醸し出している人たちへの戒めと警鐘が感じられハッとさせられた。

コロナ禍で、なかなか先が見通せない状況下にあって、私達大人はもちろん、子どもたちもある種の不安を抱いて生活している。新型コロナウイルスという目に見えないものへの恐怖から、人は己を守るために時に攻撃的になってしまうという話もある。そして、それが差別や誹謗・中傷につながっているとも言われている。

しかし、いつ、誰もが、感染してしまう可能性がある厳しい現状にあって、子どもたちに「思いやりの心」は決して失わずにいてほしいと願わずにはいられなかった私にとって、この詩に出会えたことは、心からうれしい出来事であった。コロナ禍だからこそ、差別や誹謗・中傷は決して許されないという意識、「思いやりの心」が、子どもたちの中で育まれていることをうれしく思ったのである。

種を蒔かねば芽を出し花が咲かないように、この詩を綴った子どもの心にはどんな形であれ、種が蒔かれていたはずである。担任の先生なのか、保護者なのか、それとも友達とのかかわりからなのかは分からない。しかし、子どもたちの成長には、種が蒔かれ、水と温かさが必要なことは言うまでもない。このコロナ禍は、私達大人が、自分自身、学校で、家庭で、そして地域で、普段からどんな種を蒔いているのかを振り返るよい機会にできると思った。

子どもたちが大人から学ぶばかりではない。私達大人が、子どもたちから教えられ学ぶことはたくさんあると感じた。

【総務部活動計画】

「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長 紺野 真一
(二本松市立新殿小学校)

1 活動方針と活動内容

- (1) 全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、諸会議の充実を図る。
 - 第73回全国小学校長会研究協議会石川大会
 - 第61回東北連合小学校長会研究協議会福島大会【紙面開催】(紙上発表)
- (2) 支会・各専門部の組織を十分機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。
 - 年間計画に基づく研修や情報交換
 - ・全体研修会、方部別研修会
 - ・各専門部の活動と情報交換
 - 創意工夫ある運営
 - ・活動内容・方法の工夫
- (3) 各種教育団体との連携を密にし、安達地区内の教育課題の解決に資する。
 - 県小教研研究協議会の開催
 - ・国語部会安達地区大会の支援
(10月20日)
 - 地区小中学校長協議会との連携活動
 - ・総会【紙面開催】 (4月2日)
 - ・安達地区教育長との懇談会 (8月20日)
 - ・退職校長会との懇談会 (12月3日)
 - ・退職校長感謝会 (3月18日)
 - ・中堅教員等実務研修会 (6月～7月)
 - 小中学校音楽祭、理科作品展、特別支援学級中学校区別小中交流会・児童作品展他

2 「安達は一つ」を実効あるものに

新型コロナウイルス感染症対策を始め、山積する現場の課題解決に向け、25名の会員が胸襟を開いて常に語り合い、情報を共有し続けていきたい。研修会時等の課題の共有に始まり、日常的に校長の在り方や関わり方について研修を深め、「安達は一つ」を実効あるものとしていきたいと考えている。

【経理部活動計画】

適正・円滑な経理を期して

経理部長 草野 和代
(二本松市立岳下小学校)

1 活動の基本

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開できるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

2 会費の執行状況

- (1) 今年度会費(一人あたり) 69,600円
- (2) 今年度の各負担金(一人あたり)
 - 県小学校長会費 30,000円
 - 研究大会基金 1,000円
 - 東北連小会費 2,000円
 - 東北連小準備金 300円
 - 全連小会費 6,500円
 - 日本教育会費 3,100円
 - 小中連協会費 11,000円
 - 大会参加旅費積立金 1,000円
- (3) 賛助会費(一人あたり)
 - 退職校長会賛助会費 500円
- (4) 残りの会費
 - ・事業費や運営費等に計画的に充てる。
 - ※ 事業費の中の研修費として、全連小等の大会への参加費や補助を支出するよう予算を組んでいますが、新型コロナウイルスの感染状況により、大会の開催方法の変更等が予想されるため、支出額や内訳が大きく変わる場合があります。
- (5) 旅費について
 - ・校長会研修会は、全て県費旅費となる。

3 経理部組織

二本松方部	草野 節生(原瀬小)
東達方部	菅野 芳弘(旭小)
南達方部	佐藤 聡(五百川小)

【行財政部活動計画】

教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長 鈴木 規男
(二本松市立渋川小学校)

【研究部活動計画】

第61回東北連小福島大会 及び
第50回県小学校長会研究協議会

研究部長 児山 秀典
(本宮市立岩根小学校)

1 活動方針

- (1) 教育行政上の課題解決のために、組織的継続的な対策活動を推進する。
- (2) 当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原発事故の影響に係る調査を継続して行うものとする。
- (3) 関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図り適時・適切な対応に努める。
- (4) 組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
- (2) 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- (3) 当面する重要課題の調査研究とその課題解決

3 活動計画

- (1) 行財政部会
 - 組織・活動計画作成 (4月)
 - 調査Ⅰ・Ⅲ及び特別調査の実施 (5月)
 - 行財政上の課題把握 (6・7月)
 - 要望活動の推進 (8月～)
 - 活動の反省 (1月)
 - 人事の反省 (3月)
- (2) 各種県行財政部会等への出席
 - 県行財政部合同部長会・代表部長会
 - 県行財政部幹事会・合同幹事会

4 行財政部組織

二本松方部 八巻 博之 (杉田小)
東達方部 鈴木 規男 (渋川小)
南達方部 亀山 俊之 (本宮小)

1 活動方針

- (1) 「たくましく生き ともによりよい未来を創っていく子ども」の育成に向けた校長としての取組が明らかになるように進める。
- (2) 研究を校長自身の研鑽の場にとらえ、校長としての考えや取組が明示されるよう研究を進める。校長会の組織的な研究として質の高い実践研究を進めていく。
- (3) 8月の第3回研修会を、令和2・3年度方部研究成果発表の機会として位置づけ、実践を共有し、学校経営に生かす。
- (4) 第Ⅱ期研究に向けた準備を進める。

2 活動内容

- (1) 東北連小福島大会参加 (紙面開催)
- (2) 各方部による実践と成果等のまとめ
- (3) 県研究集録第7分科会の作成 (東達)
- (4) 全連小研究協議会石川大会への参加
- (5) 第Ⅱ期研究に向けた見通しと準備

3 研究組織と研究の視点

方部	方部長	分科会【研究の視点】
二本松	伊藤比呂美 (大平小) 〔希望支会〕	1 経営、組織・運営【視点2】 教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営
東達	藤原 謙 (小浜小) 〔発表支会〕	7 学校安全【視点1】 自他の安全のために自ら判断し行動できる子どもを育てる取組の推進
南達	舘脇一弘 (大山小) 〔希望支会〕	10 社会との連携・協働【視点1】 家庭・地域等と連携・協働を深める学校づくりの推進

県校長会研究部方針「共通実践を通して校長のスキルアップを図る」と「安達は一つ」という支会スローガンの下、校長の果たすべき役割と指導性を追究していく。50回記念大会の年にふさわしい実践やまとめとなるよう努めていきたい。

【生徒指導部活動計画】

生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長 小林 雄
(大玉村立玉井小学校)

1 活動目標と方針

- (1) 県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。
- (2) 生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。
- (3) 幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

2 活動内容

- (1) 生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。
 - ① 「心のケア」を必要とする児童の実態調査
 - ② 「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査
 - ③ 「ネット・SNS利用の実態」ルールに関する調査
- (2) 共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。
- (3) 各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

3 活動計画

- (1) 生徒指導部会
 - 組織・活動計画作成 (4月)
 - 調査の実施 (5～7月)
 - 調査報告書の提供・情報交換 (8月)
 - 今年度の反省と次年度の取組 (2月)
- (2) 各種県生徒指導部会への出席

4 生徒指導部組織

二本松方部 佐久間 仁 (塩沢小)
東達方部 鈴木 浩記 (東和小)
南達方部 小林 雄 (玉井小)

【広報部活動計画】

学校づくりを支える広報活動

広報部長 鈴木 茂
(本宮市立白岩小学校)

1 活動目標

- (1) 会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。
- (2) 関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 広報「安達太良」の発行(年3回)
- (2) 地区広報部会の開催と連携
- (3) 県広報部幹事会との連携
- (4) 県会報、校長会のあゆみ、小学校時報への寄稿

3 活動方針

- (1) 広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員1回を原則として寄稿を依頼する。
- (2) 校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。
- (3) 広報の発行は年3回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。
- (4) 県会報等の寄稿については、支会長より依頼する。
- (5) 会員への会報はメールで届ける。

4 活動日程

- (1) 広報部の活動計画(第1回研修会にて承認)
- (2) 広報部会 (必要に応じてメール等で)
- (3) 広報の発行予定

191号	7月1日
192号	12月1日
193号	3月1日
- (4) 県会報への寄稿
 - ・今年度は、253号県会報「ふくしま人この道に生きる」、「支会だより」原稿依頼

5 広報部組織

二本松方部 小野 明彦 (安達太良小)
東達方部 大内 剛 (油井小)
南達方部 鈴木 茂 (白岩小)

■ 【新任校長として】

チームとして

二本松市立安達太良小学校 小野 明彦



《夏無川での校外学習の様子》

本校は安達太良連峰の中腹に位置し、豊かな自然や岳温泉街やあだたらスキー場等、教育資源に非常に恵まれています。

本校の児童は47名。本校児童の長所として、非常に素直で、「授業が楽しい」と9割以上の児童が答え、わかるようになりたい、できるようになりたいという気持ちを前面に出し、目を輝かせてがんばる所が挙げられます。

その子どもたちの意欲や学びを支えているのが、本校の先生方です。一人ひとりにしっかりと目を配り、気を配り、きめ細やかに心を砕き、何とかしてあげたいと情熱と信念を持ち子どもたちに相対しています。ラグビーのワールドカップで「ワンチーム」という流行語が生まれました。本校もまさに「ワンチーム」です。「子どもたちのために」を合い言葉に、一丸となつてがんばっています。

私も今年度よりその一員として加わりました。新任の私ではありますが、校長会の諸先輩方のご指導を頂きながら、教育目標「豊かな心と健やかな体を持ち、ひたむきに学び続ける子どもの育成」の達成に向け、日々努力してまいります。現在、様々な制約はありますが、子どもたちの笑顔のため、できないと嘆くよりも、できることを見つけ、感染防止と学びの充実の両立に取り組んでまいりたいと思います。

■ 【新任校長として】

「舍不在功」
～功は舍（や）めざるに成り～

二本松市立原瀬小学校 草野 節生



原瀬小学校の校長室には、『功在不舍』の言葉が飾られています。

本校は明治6年に創立され、今年で創立148年目を迎えました。これは、1974年の創立百周年の際に、当時の第95代 奥野 誠亮（おくのせいすけ）文部大臣より贈られたものです。この言葉は、性悪説で有名な荀子の言葉であり、以下の原文から引用されたものです。

不積跬歩、無以至千里。

騏驎一躍、不能十步。

駑馬十駕、則亦及之。

功在不舍。

「跬歩（きほ）」とは、右足なり左足なりを一步前へ進めることを意味しており、『千里の道もそういう一步を積み重ねていくことによって到達するものだ。』という教えです。

また、この言葉には、『目に見えない努力を積み重ねない者には、成功はおとずれるはずがないし、目につかぬところで仕事の手を抜く者には、輝かしい成果などあるはずがない。』といった教えも込められています。

4月から新任校長として着任させていただきましたが、「舍不在功」の教えを胸に、原瀬小学校の教職員や保護者、地域の方々、そして子どもたちと、ひとつひとつ、一日一日の積み重ねを大切にするとともに、校長として陰ひなたなく全力で取り組むことで、「子どもたちが笑顔で『学校が楽しい』『友達が好き』『勉強が面白い』と言える学校づくり」を目指していきたいと思ひます。

今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

■ 【新任校長として】

「日山」を望みながら

二本松市立旭小学校 菅野 芳弘

阿武隈山系では大滝根山に次ぐ高峰「日山」に見守られて、本校はあります。校長室には、日山山頂で撮影された、富士山の写っている写真が飾られています。

さて、本校は全校生で31名、完全複式学級の小規模校です。学校全体がファミリーのような感じさせます。子どもたちは、上級生が下級生の面倒をみるのは当たり前で、兄弟のような関係です。

コロナ禍で、制約の多い学校教育の中で、様々な行事や活動が延期・中止・内容変更をせざるを得ない状況となってきています。しかし、本校では、小規模校のよさを生かして、他校に比べれば教育活動が可能になるチャンスが大きいと考えています。

その中の一つが、5月に実施した「旭っ子スポーツ大会」です。児童主体で創り上げる行事を目指して実施しました。4つの縦割り班が、各リーダーのもとで何ができるかを話し合いました。準備運動も、子どもたちが新たに考えて取り組んだり、チームで作戦を立てて協力して各種目に参加したりしました。「旭っ子の、旭っ子による、旭っ子のための大会」になりました。新型コロナウイルス感染症が厳しい状況でしたが、感染予防対策を徹底しました。



今後は、日山での自然体験活動や岩代地区の伝統野菜を使った活動など、地域に根ざした学習を重点的に進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、校長会の皆様には日頃より様々なご助言をいただき、大変感謝しております。今後も、どうぞよろしく願いいたします。

■ 【新会員として】

地域と共にある学校をめざして

二本松市立塩沢小学校 佐久間 仁

磐梯町立磐梯第二小学校からまいりました。二本松市内に勤務するのは8年ぶりになります。自分が生まれ育った故郷で子どもたちの教育に携わることができ、光栄に感じております。

さて本校は明治13年8月の開校以来、今年で141年目を迎えました。新入生11名を迎え、全校生82名で新年度がスタートしました。

今年2月13日に発生した福島県沖地震では、体育館通路など校舎の一部が損壊したため、入学式は多目的ホールで実施しました。在校生の参加を見合わせ、限られた職員で対応しましたが、先生方の機敏な対応とPTA会長さんをはじめ保護者のご協力のおかげで無事実施することができました。式を通して小規模校ならではの“団結力”を垣間見た気がいたします。教育委員会をはじめ関係機関の皆様には子どもたちの活動に支障をきたさないようにと一日も早い復旧にご尽力いただいております。まさに保護者、地域、関係機関に支えられている学校だと強く実感しております。

ただ子どもたちは日々成長をしており、校舎が完全に復旧するのを待つてはくれません。コロナ禍の中、健康、安全の確保を第一に考えながら、限られた環境を最大限に生かして教育活動を充実させていくことに心を砕いていかなければならないと考えております。

まずは地域の「人・もの・こと」とかかわりながら、故郷のよさを学ぶ活動を大切にまいります。地域の皆様のお力添えをいただきながら教職員一丸となって教育目標の具現化に邁進してまいりたいと思います。

安達支会の校長先生方には今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

